

## 《 競 技 注 意 事 項 》

1 本大会は、2022年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項により実施する。

### 2 練習及びウォーミングアップについて（別紙参照）

ウォーミングアップは、下記のとおり係員の指示によって行うこと。

- (1) ウォーミングアップは、「練習会場の使用日程およびレーン区分について」のとおりとする。
- (2) 特に投てき練習は、使用日程に基づき事故防止に万全を期すこと。

### 3 招集について

(1) 招集所は、室内走路北側付近に設ける。

(2) 招集の方法

- ①招集チェック完了時刻までに、本人または代理人が招集所でチェック表に出場の場合は○印をつける。また、招集完了時刻までに現地で点呼を受けること。出場チェック表は当日の種目についてすべて掲示する。その際、トラック種目出場者は腰部のナンバーシールを受け取ること。（4×100mRは第4走者、4×400mRは第2・3・4走者）1500m以上の長距離種目については、胸部のシールも受け取ること。
- ②多項目同時に出場する競技者は、あらかじめその旨を本人又は代理人が多項目同時出場届け用紙（招集所に準備）に記入し、招集完了時刻までに競技者係に提出する。また、チェックはすべての種目で行うこと。
- ③リレー競技に出場するチームは、各ラウンド第1組の招集完了時刻の1時間前までに所定のオーダー用紙（招集所に準備）に必要事項を記入し、競技者係に提出する。（予選では1チーム4枚・提出時に3枚返却）予選後、メンバー及びオーダー変更の有無にかかわらず、返却されたオーダー用紙で手続きをする。
- ④出場種目を棄権する場合は、棄権届け用紙（招集所に準備）に記入し招集完了時刻までに競技者係に提出する。リレー種目については、リレーオーダー用紙提出時刻までとする。
- ⑤招集完了時刻に遅れた競技者は、当該種目を棄権したものとみなし処理する。
- ⑥規定の厚さ以上のシューズを履いて競技に参加することはできないので注意すること。
- ⑦携帯電話および通信機能を有する機器の持ち込みは禁止する。
- ⑧商標の点検は自ら行い、競技場内で係から指摘を受けることのないようにすること。  
13その他（2）を参照する。
- ⑨招集完了時刻は、次のとおりとする。

種 別		招集完了時刻（現地）
トラック競技		20分前
走高跳・走幅跳・三段跳・砲丸投・円盤投 男子ハンマー投・やり投		50分前
棒高跳・女子ハンマー投		40分前
混成競技	第一種目	トラック：20分前    フィールド：30分前
	第二種目	トラック
	以降	フィールド

混成競技において、第1日、第2日ともに第1種目は招集所でチェックを行うが、それ以降の種目については、現地で招集完了時刻までに点呼・確認を受ける。

### 4 アスリートビブスについて

(1) アスリートビブスは、各自の登録ナンバーを胸部と背部に付けること。

ただし、跳躍種目の競技者は胸部又は背部の片方だけでもよい。

(2) トラック競技に出場する競技者は、腰ナンバーカードをパンツの右横や後方に付けること。また、

1500m以上の競技については、周回確認用のレーンナンバーカードも胸部に付けること。これらは、招集所に準備する。

- (3) 4×100mRの第4走者、4×400mRの2・3・4走者は、腰ナンバーカードをパンツの右横やや後方に付けること。

## 5 競技場への入退場について

### (1) トラック競技

- ① 競技場への入場は、100mスタート側およびゴール側の門から行う。
- ② トラック競技者は、フィニッシュライン到着後、第1ゲート（ゴール側）から退場する。  
ただし、4×100mリレーの第2・第3走者は、第4ゲート（第4コーナー）から、第1・第4走者は第1ゲート（第1コーナー）からそれぞれ退場すること。

### (2) フィールド競技

- ① 競技場への入場は、トラック種目と同様とする。
- ② 競技を終了した選手は、跳躍及び投てき競技役員の指示により最寄のゲートから退場する。

## 6 番組編成について

- (1) 予選におけるトラック競技者の走路順、跳躍、投てき競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で示す。
- (2) 準決勝・決勝のレーンは、主催者において公平に組合せの上、抽選して決定する。走路順は選手招集所付近に掲示する。
- (3) トラック競技の準決勝・決勝に進む+αの決定について
  - ① 全競技、写真判定の記録順（1/100秒）による。
  - ② 予定された人数を上回って同記録がでた場合はすべて写真判定の記録の1/1000秒単位の詳細な着差判定を行う。それでも同着の場合は、800mまでの競走とリレー競走は抽選、1500m以上の競走においては、すべて次のラウンドに進める。ただし、レーンに余裕がある種目（100m、100mH、110mH）では同記録者の着差判定は行わず、次のラウンドに進めるようにする。ただし、レーンに不足がある場合は抽選とする。
- (4) フィールド競技は、測定標準記録を設けるが、気象条件等の特別な状況が生じた場合は、当該審判長の判断により変更することがある。

## 7 競技について

### (1) トラック競技

- ① レーンで行うトラック競技においては、欠場者のレーンは空けること。
- ② 短距離走では、フィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）に沿って走り、他の走者の妨害をしないようにすること。
- ③ 4×100mRの第2・3・4走者は、走路に自分で準備したマークを一ヶ所使用することができる。ただし、各チームはそのマークを、責任を持って撤去すること。
- ④ リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいてもリレーまたは他の種目に申し込んでいる競技者であれば出場することができる。ただし、どのラウンドにおいても出場するメンバーのうち少なくとも2人はリレーに申し込んだ競技者でなければならない。予選に出場したメンバーはその後のラウンドを通して、2人以内に限り他の競技者と交代することができる。また、リレー競技に出場するチームは同一のユニフォームで参加しなければならない。

※ 奨励種目だけにエントリーしている選手は、出場することはできない。

### (2) フィールド競技

- ① 跳躍・やり投の競技者は、助走路の外側（走高跳は助走路内）に主催者の用意したマークを2個まで置くことができる。
- ② 競技場内での練習は、全て競技役員の指示に従うこと。指示以外の練習は認めない。
- ③ 三段跳の踏み切り板は男子11m地点、女子9m地点に設置する。
- ④ 棒高跳の公式練習は、ゴムバーで行う。

## 8 バーの上げ方について

- (1) 走高跳・棒高跳の練習の高さ及びバーの上げ方は次の通りとする。

	練習	1	2	3	4	5	6	7	以後
走高跳 (男子)	1 m 6 5	1 m 7 0	1 m 7 5	1 m 8 0	1 m 8 5	1 m 8 8	1 m 9 1	1 m 9 4	+3 cm
	1 m 8 5								
走高跳 (女子)	1 m 3 0	1 m 3 5	1 m 4 0	1 m 4 5	1 m 5 0	1 m 5 3	1 m 5 6	1 m 5 9	+3 cm
	1 m 4 5								
棒高跳 (男子)	2 m 7 0	2 m 8 0	2 m 9 0	3 m 0 0	3 m 1 0	3 m 2 0	3 m 3 0	3 m 4 0	+1 0 cm
	3 m 5 0								
棒高跳 (女子)	2 m 1 0	2 m 2 0	2 m 3 0	2 m 4 0	2 m 5 0	2 m 6 0	2 m 7 0	2 m 8 0	+1 0 cm
	2 m 6 0								

- (2) 混成競技の走高跳については、申告のあった高さで一番低い高さから開始し、3 cm ずつ上げる。  
(3) 第1位が同成績の場合は順位決定を行う。そのためのバーの上げ下げは、走高跳では2 cm、棒高跳では5 cm とする。(東北大会出場権を決定する場合においても同様とする)

## 9 測定標準記録について

- (1) フィールド種目の測定標準記録は次の通りとする。

ただし、天候その他特別な状況が生じた場合、変更することがある。

	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投
男子	6 m 1 0	1 2 m 3 0	1 0 m 0 0	2 7 m 0 0	2 6 m 0 0	4 0 m 0 0
女子	4 m 8 0	9 m 6 0	7 m 5 0	2 3 m 0 0	1 9 m 0 0	2 5 m 0 0

- (2) 競歩においては、男女ともに32分で最終周に入らない場合、競技を続行できない。

## 10 競技用器具について

競技に使用する器具は、主催者の準備したものを使用すること。ただし、棒高跳のポールは検定のうえ使用してもよい。なお、検定については、棒高跳のポールは跳躍場において競技開始までに行うこと。

### 11 表彰について

- (1) 男女総合・トラック競技・フィールド競技それぞれ3位まで表彰する。  
(2) 各種目第3位までの入賞者を表彰する。成績発表後、表彰控え室へ集合すること。

### 12 一般注意事項

- (1) 健康上で問題が生じる等、応急手当が必要な場合は、医務員に連絡すること。競技会場での疾病傷病等の応急手当は主催者が行うが、以後の責任は負わない。  
(2) 大会期間中の貴重品の管理は各自行う。盗難にあっても責任は負いかねる。  
(3) 集団応援を含む声を出しての応援は禁止とする。  
(4) 記録はその都度発表するが、随時大会結果速報を更新する。  
(5) 届けられた遺失物については、大会庶務係で保管する。

### 13 その他

- (1) 本大会に関して寄せられた個人情報、本大会の目的以外に使用することはありません。  
(2) 競技場で着用する衣類等の1品ごと製造会社のロゴを入れることができるが、その大きさは、上衣は面積30 cm<sup>2</sup>・高さ4 cm 以内・下衣20 cm<sup>2</sup>・高さ4 cm 以内とし、1か所とする。

## 1 4 新型コロナウイルス対策について

福島県陸上競技協会が示している「競技会参加にあたって」（下記参照）遵守し、感染拡大防止に努めること。

### (1) 競技者

①競技会1週間前から検温し、オンラインにより体調の報告を行うこと。提出方法については別紙「体調チェックシートのオンライン提出について」を参照のこと。提出しない競技者は出場不可となる場合がある。

※以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせること。

- ・体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。
- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合

②運動時以外（招集中・移動中・待機中を含む）のマスクの着用（熱中症に注意）、競技終了後の手洗い・洗顔を徹底する。

③3密回避行動を心がける。

④ウォーミングアップは個別に行う。

⑤競技用具使用後は手洗い・手指の消毒をする。

⑥更衣室の滞在は短時間にする。（シャワールームの使用を原則禁止とする。）

⑦運動中につばや痰を吐くことは極力行わない。

⑧体液の付着したゴミは自己責任で処理する。（各自持ち帰り）

⑨滑り止め（炭酸マグネシウム）は各自準備する。

⑩競技会終了後、2週間は健康チェックをし、発熱などの症状があった場合には、最寄の保健所、かかりつけ医、帰国者・接触者センターと等に報告・相談後、必ず大会主催者に報告すること。

### (2) チーム関係者（感染拡大状況により変更あり）

①マスク着用（熱中症に注意）、手洗い・洗顔を徹底する。

②3密回避行動を心がける。

③声を出しての応援、集団での応援を行わない。

④競技者に付き添う場合の競技者とのソーシャルディスタンスを確保し、接触、会話に注意する。

⑤混雑を回避するため、競技者に付き添う者のウォームアップ場への立ち入りを最小限にする。

⑥コーチがコーチ席から競技者に向かって話す際は、マスク着用の上、ソーシャルディスタンスを確保すること。

⑦競技会終了後、2週間は健康チェックをし、発熱などの症状があった場合には、最寄の保健所、かかりつけ医、帰国者・接触者センターと等に報告・相談後、必ず大会主催者に報告すること。